

第1回 公開講座 「子どもの手は魔法の手」

広島文化学園子ども・子育て支援研究センターでは、平成26年～28年までの3年間「音で遊ぼう」というテーマのもと、公開講座を開催してきた。平成29年度は地域からさらに期待され、求められる公開講座を目指し、子ども・子育て支援に関するテーマを拡充した。子ども・子育て研究センター委員の大学教員がそれぞれの専門性を生かし、子育てのニーズに応えるというものである。以下、年間プログラムを示す。

○第1回目【子どもと造形活動】

「子どもの手は魔法の手」ベビーARTワークショップ

子ども学科2年生「保育内容（造形表現）」（幼保選択必修）の授業の一環として、6月13日（火）と6月20日（火）に乳幼児とその保護者たちとの造形活動を行った。学生の他の授業などとの兼ね合いで、違う内容を2回に分けて行った。

6月13日 11時～12時『ペタペタART』 内容：シール貼り&手形取り 学生数：9名

シール貼りは円形のシールを貼って絵を完成させていくもので、未満児が無理なく手軽にできる造形活動として保育園などで取り入れられている活動である。手形取りは、白い紙に子どもの手形のみを写し取るのではなく、子どもの手形が写されることで絵が完成するような活動にした。両者

とも「何かが足されることによって完成する絵柄」を考案しなくてはならず、学生たちはその台紙を作成した。絵柄の考案にあたっては「3歳未満の子どもが理解でき、親しみが持てるもの」「保護者も子どもも喜ぶ美しくてかわいらしいもの」になるように留意を促した。手形取りでは、絵の具を手や足に塗る感触に驚き、泣き出す子どももいたが、保護者は家ではなかなかできない活動なので積極的に手形や足形を取りたがる傾向が見られた。

学生からの反省としては、「0～3歳までの子どもへの接し方が分からず、声かけも保護者や先生の言っていることの真似しかできなかった」「ペタペタシールのときに、始めから色々な種類（直径や色が違う）のシールを机においておけば良かった」などが挙げた。

6月20日 13時30分～14時30分『ガラスにお絵かき』 内容：ガラスに絵が描ける（そしてきれいに消すことができる）専用クレヨンで窓ガラスに絵を描く 学生数：7名

Kitpas（日本理化学工業株式会社：窓ガラス専用のクレヨン）を用いた活動を行った。美術館のオープニングワークショップなどでも用いられているクレヨンで、発色も良く、きれいに消すことができる。子どもたちは日常的に窓ガラスに絵を描く経験がないが、「描いてごらん」と声かけされると躊躇することなく大胆に描いていた。保護者もこうした「家ではできない活動」ができることに満足している様子であった。

第1回	6月13日（火） 6月20日（火）	子どもの手は魔法の手 ベビーARTワークショップ	小笠原（子ども学科・准教授）
第2回	8月8日（火）	音で遊ぼう！楽器で遊ぼう！	和田（音楽学科・准教授）
第3回	10月10日（火）	幼稚園・保育所における「あそびとまなび」 について	合原（子ども学科・准教授）
第4回	12月8日（金）	季節を彩る、子どものための行事食	江坂（食物栄養学科・准教授）
第5回	2月6日（火）	ゆっくり子育て、「日にち薬！」	田頭（保育学科・教授）

★2017年～2018年に開催



写真1：手に絵の具の塗る子ども。手形の花を咲かせる。



写真4：ガラスに絵を描く子ども。



写真2：シール貼りをする子ども
「魚のうろこ」を想定して台紙を作ったが、子どもは「水の泡」を貼っている。



写真5：Kitpas。安全な国産のクレヨン。保護者からの質問も相次いだ。

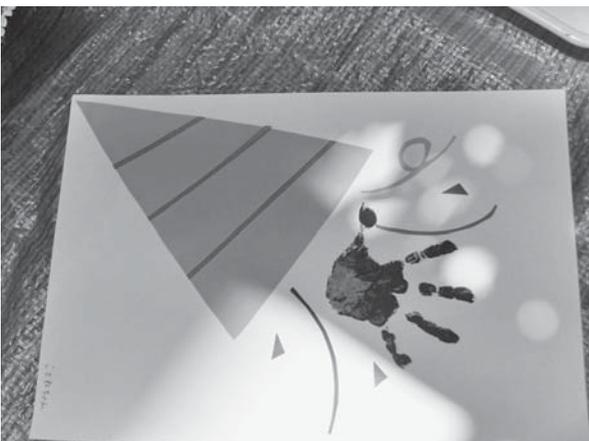


写真3：手形のクラッカー。子どもの手形にいか「価値」を与えるか、台紙の発送が良い。



写真6：活動に入る前は手遊びで子どもとの距離を縮める。